

いきいき  
まえばし人



7人制女子ラグビーU-23日本代表  
阿久津 愛里さん・19歳  
東片貝町

女子ラグビーの楽しさ伝えたい

1月に東京で行われた7人制女子ラグビー23歳以下の日本代表選考会で代表選手に選出された。今回の選考は18歳から23歳までの若い世代が対象。香港での国際トーナメントで経験を積み、更に大きな成長が期待されている。

「選考発表で自分の名前が呼ばれた時はうれしかったです。未知の世界ですが、普段の自分の力を存分に発揮できるように頑張りたいです」  
15人制ラグビーではスクラムハーフを務めるが、日本代表の7人制ではフォワードの右プロップ。15人制とは違い攻撃や守備の分担がない分、持久力が必要だ。  
「守備範囲が広いので、常に次のことを考え、周りを広く見ることに気を付けています」

ラグビーとの出会いは高1の秋。母の知人から前橋レディースを紹介され、入部した。

「幅広い年齢の人がいて、本当に楽しく練習をしています。監督をはじめ多くの先輩に丁寧な指導をしてもらいました。このクラブとの出会いが、わたしのラグビー人生の原点です。もっと多くの人に女子ラグビーの魅力を知ってもらい、一緒にプレーできたらうれしいです」

現在、前橋医療福祉専門学校に在学中。将来は理学療法士を目指す。時間がある時は、ビーズ作りやネイルアートも楽しむ。  
「もっと練習をして、走れて当たり負けしない選手になりたいです」  
大きな希望を胸に世界へ羽ばたいてほしい。

いにしえ  
万華鏡  
その一

問い合わせは 文化財保護課 ☎231-9531

県を代表する古民家

国重要文化財 阿久沢家住宅

市の北部、県道大胡赤城線の柏倉交差点を北上し、700メートルほど先の信号機のある交差点を西に曲がると、北側の棚田越しに見える森。この中に、国重要文化財・阿久沢家住宅があります。



名主や組頭を務めた旧家

赤城山南ろく地域には、中2階造りで、屋根の一部を切り上げて養蚕に適した採光と通気を配慮した赤城型民家と呼ばれる古民家が多く残っています。しかし、この阿久沢家住宅は、その造りとは全く異なるかやぶき寄せ棟造りの平屋の建物。至ってシンプルな姿をしています。

昭和43年に実施した県下の民家緊急調査で、県内の古民家の特徴を示す好例として、昭和45年6月17日、国の重要文化財に指定されました。昭和49年から50年にかけて全面解体修理を行い、建築当初の形に復元整備。その建築手法から、17世紀後半（江戸時代前期）ごろの建築と推定されています。

この阿久沢家住宅は、当主の阿久沢純一さんが保存に尽力されています。また、「七の会」や「阿久沢家住宅を守る会」などの近隣の有志の皆さんによるボランティア組織が定期的に清掃活動などを行っています。

阿久沢家の縁側に座り、屋敷口の桜をのんびりと眺めるひとときは格別です。加えて、舞い散る桜の花びら越しに見える阿久沢家住宅の姿もまた一段と素晴らしいもの。ぜひ、この時季訪ねてみたい文化財です。



希望を両手に新たな旅立ち

3月13日、市立中学校21校で卒業証書授与式を行いました。ことしは、2,780人の中学生が卒業。七中では、新校舎に移転・開校して初めての卒業式。185人が3年間の思い出を胸に、それぞれの道へと元気に巣立っていきました。

時空を超えて古墳時代へ



市民が参加した前二子古墳石室復元市民プロジェクト。その完成を記念して、3月15日前橋プラザ元氣21で講演会と展示が行われました。復元された装身具類などに、訪れた人は真剣に見入っていました。

ドクターヘリを間近で見学

グー・ズ・ア・ップ



迫力の演奏で観客を魅了

3月21日、市民文化会館でミュージック・フェスタ2009を開催しました。市内20の中学校吹奏楽部員一同が集まり、1年間の部活動の成果を披露。出演者全員での演奏も。訪れた大勢の人たちは、多彩な曲目と迫力あるサウンドを満喫しました。

3月14日、前橋赤十字病院でドクターヘリ見学会が行われました。屋上のヘリポートは強風とみぞれ交じりの雨が降るあいにくの空模様。参加者は機体をバックに写真を撮ったり、係員から離陸や着陸方法などの説明を聞いたりしました。

